

令和4年度 各事業におけるトラブル事象の水平展開状況（令和4年度発生トラブル分）

資料3別紙4

No	事業名	発生年月日	件名	概要	発生事業所での対応	北九州PCB処理事業所での対応	豊田PCB処理事業所での対応	東京PCB処理事業所での対応	大阪PCB処理事業所での対応	北海道PCB処理事業所での対応
1	豊田	令和4年7月22日	鉱物油配管に設置されているグローブ弁からの漏洩	<p>コンデンサ自動解体ラインの解体撤去へ向けて配管内の浸漬洗浄中、この配管につながる鉱物油ラインに設置されているバルブ（グローブ弁）から油が滴下。漏洩量は2ml程度で防油堤内への漏洩。PCB濃度は8720ppm。</p> <p>原因は、バルブのペローズが破損しており、バルブメーカーの原因調査では、当該バルブは17年間という長期間操作されていなかったためペローズが何らかの原因で変形もしくは固着し、弁開時に破損した可能性があるとのことであったが、原因の特定には至らなかった。</p>	<p>定期点検等で定期的にペローズ式バルブを操作することを考慮し、3年以上開閉していないバルブを対象に、バルブ開閉操作前にグラウンド部の緩み具合の確認、バルブの開閉操作直後に漏洩がないことの確認、及び、その後の重点監視を実施。それ以外のバルブについても通液時には監視を実施。</p>		発生事業所	<p>・長期間未使用のバルブ使用時のパトロールの重点的な実施を中心に注意喚起を実施。</p>	<p>・長期間未使用のバルブ使用時のパトロールの重点的な実施を中心に注意喚起を実施。</p>	<p>・バルブ操作を含む作業時のPIDの確認及び想定されるトラブルの事前打合せを中心に注意喚起を実施。</p>
2	東京	令和4年10月18日	洗浄装置からの洗浄液の漏洩	<p>1階の洗浄装置の自動運転中、洗浄液を送液するポンプが自動停止せず、洗浄液が洗浄装置外に漏洩。漏洩量は約50Lで洗浄装置が設置されている洗浄室の防液堤内への漏洩。PCB濃度は5ppm。</p> <p>原因は、送液ポンプを制御する洗浄装置の液面計の不具合であった。液面計の表示がマイナス側にドリフトしており、ポンプが停止する液面の高さを表示せず、ポンプが稼働し続けた結果漏洩に至った。</p>	<p>主な対策は以下のとおり</p> <p>①今後の洗浄装置の使用台数を踏まえ、使用する洗浄装置の液面計を交換</p> <p>②メーカーによる液面計の定期点検を3年に1度実施</p> <p>③洗浄工程開始前に中央制御室で液位を確認し、誤差がないことを確認。万が一誤差がある場合は調整してから洗浄を開始</p> <p>④ポンプの液張り時間の警報を設定し、所定時間を超過した場合は発報</p>	<p>・PCBを含む排水、油を扱うタンクは液面計が2重化されていることを確認。</p> <p>・洗浄装置については既に運転を停止している。</p>	<p>・重要機器の液面計は2重化されていることを確認。</p> <p>・液面計の点検は、定検で実施。</p>	発生事業所	<p>・重要機器は2重化されていることを確認。</p> <p>・過去の実績から対象計器の点検周期を決め点検を実施。</p>	<p>・重要機器は2重化されていることを確認。</p> <p>・中制で動きを見て、状態や劣化状況を監視し点検・交換を実施。</p>